LingvoオクトM＋

Vol.33

詩

川柳

小説・エッセイ

他

Ｖｏｌ．３３
９月８日（月）姫路市民会館
第９会議室
読書会講師：
情野千里
次回１０月１３日（月曜日）
会場：姫路アイメッセ予定
読書会：講師未定
講師募集

LingvoオクトM＋の
参加は自由です。斬新な作品を募集します。

管理人高谷和幸
〒676-0815　高砂市阿弥陀1ー１１－２４
e-mail takatani_kk@yahoo.co.jp

読書会　情野千里

再度「あべの文学」３９号に発表されました「白無窮花の家（しろむくげいえ）」について。新しい資料をもとに、批評を含めお話をしていただきます。

合評会では詩集『蚊取り線香の匂い』（黒田ナオ著）から三編の詩をを独断で選びました。においとリズムに乗ってノスタルジックで少し悲しい記憶の世界を充分に楽しんでください。ご参加をお待ちしています。

まんじゅう

浜田多代子

まんじゅうが二つ
備前焼の皿に一つずつ
湯呑には
お茶の湯気が
白くうっすらと立つ

お父ちゃんが
出張から帰ってきた
いつもお土産を買ってきてくれるお父ちゃん

皮のカバンを開ける
へぎの包み
中には大きな饅頭が六っつ
仏さまに一つ
小さなお社に一つ
後は

お父ちゃんとお母ちゃん
お兄ちゃんと私

手からこぼれそうなほど
大きなまんじゅう
一口にほおばると
ものが言えないほど
口の中はいっぱい

お父ちゃん　おいしい

笑顔がはじける

口数の少なった夫と
まんじゅうを小さく切りながら
一口一口
ゆっくり食べる
一口の穏やかさ

ｕｍｉｅ

吉田ふみゑ

映画を見に行きたいのですが
映画館はどこにありますか
ｕｍｉｅに行ってください
海に行くとあるのですか
そうです、ｕｍｉｅです
海へ、海へ、海へ
ですね

暑いので地下を通って
建物の中を抜けて行くのですよ

親切な人は道順を教えてくれた
海へ、海へ、海へ

突堤に出た
太陽は容赦なく照りつけた

映画館はどこにもなかったけど
映画を見るように
目の前の大観覧車を見て
海と空を見た

階段井戸

高谷和幸

赤砂岩が引き裂いた海に　浸かった体をゆるく
ゆするものと　もどるものと　浅い汀の砂地に
穴を掘った　今日は二枚貝になるみたいだ　べ
ろんとした「舌状」のものは足　彼には穴の階
段（きざはし）を降りた奥に　靭帯に繋がれた
二つの殻は　放り出されたゼンマイ仕掛けのよ
うに　何年も真水を求めて　穴の底にとどまっ
ていた記憶がある　母なのか　父なのか　書き
溜めた古文書の紙の屑が手に渡され　濃い煙の
ような言葉が立ち上っていた　何度も　偽りを
書き　色を濃く　毒を含む舌で舐めてきたのだ
ろう　とんでもありません　わたしはただの貝
ですから　沈黙　ああ　あの嘘はずっと昔から
の遺言なのです　貝殻のうらに聞こえたものは
木霊して　その縞状のレコード　誰も触れない

のに石の階段の幾何の呪文が見えて　かすかに耳を傾けると　誰かの声が聞こえた　女性だろうか　彼女が落ちていった跡を追うと元に帰れないという　夕暮れの身動きは砂と水に溶けていた　まるで初めから存在していなかったように　あっちの貝殻とこっちの貝殻をぱたんと合わせば　それはどこから見ても二次元の世界です　それが二枚貝の毒性　いえいえそれは排泄物の緑色の偽糞でしょう　触らないでください

7月読書会のサブテキスト

高谷和幸記

○**講師の紹介**

竹原　俊川 Takehara Junzou

元当塾　常任理事

東播磨木鶏クラブ代表世話人

寺子屋ネットワーク代表

略歴１９５０年（昭和２５年）生まれ。愛媛大学法文学部法学科卒。

重機械（発電プラント）メーカーで４０年間一貫してコーポレート部門（経営管理、企画、経理、人事・教育）で勤務。

この間３９歳から7年間担当した人事　教育の中で、　運を切り拓くモノの考え方　生き方や組織づくりがあるのではないか　との考察を始め、　人創り　　組織改革　に傾注。

６２歳で寺小屋やネットワークを創設。

兵庫県高砂市を中心に郷学（仮名論語・漢文論語・地政学・日曜読書会・テーブルスピーチサロン）を仲間と共に主宰。

専門分野地政学/弁証法思考（論理学）/論語/運命を切り拓く生き方

関連分野易経/中庸/国際政治・経済・社会/

《ここからは高谷が調べた資料です。予備知識としてお読みください》

〇甲義堂の歴史とその意義について

申義堂は、今から約２００年前の**江戸時代**に、姫路藩主の家老である**河合寸翁**によって高砂北本町に創設された学問所です。**庶民を対象とした英才教育**を行うことを目的としており、当時ここでは**朱子学**が教えられていました。初代教授は菅野真斎で、美濃部達吉の父である美濃部秀芳が最後の教授を務めました。

明治４年（１８７１年）７月の廃藩置県により、申義堂は廃校となります。その後、建物は高砂の岸本家に払い下げられ、明治１２年には、警察署建設のために加古川市東神吉町西井ノ口に移築され、など、様々な用途で使われいました説教所として利用されました。太平洋戦争中には陸軍兵士の宿舎となり、終戦後は倉庫に転用されそして、元の場所とは異なりますが、高砂町横町に江戸時代の姿に復元され、現在に至っています。木造平屋建の簡素な造りで、２０畳の座敷などがあります。

。

○「藩校」と「寺子屋」の違い

江戸時代、儒学を教える学問所は、幕府や藩が設立した「藩校」と、個人や民間の学者によって開かれた「私塾（しじゅく）」に大別されます。「寺子屋」は読み書きそろばんなど庶民の基礎教育が主でしたが、儒学を専門的に教える場合は「私塾」と呼ばれることが多かったです。

儒学を教授した主な私塾とその場所について、以下に説明します。

江戸時代の主な儒学系私塾とその特徴

江戸時代には、それぞれの儒学者が独自の学派を形成し、多くの私塾を開きました。これらの私塾は、単なる知識の伝達だけでなく、それぞれの学派の思想を広める重要な拠点となりました。

昌平坂学問所（しょうへいざかがくもんじょ）

場所： 江戸（現在の東京都文京区湯島）

特徴： 幕府直轄の最高学府であり、当初は林羅山が上野忍ヶ岡に建てた私塾「弘文館」に源流を持ちます。後に湯島聖堂に移され、朱子学を正学としました。全国の藩校にも大きな影響を与え、儒学研究の中心地となりました。私塾というよりは官立の性格が強いですが、儒学教育の頂点に立つ存在でした。

懐徳堂（かいとくどう）

場所： 大坂（現在の大阪市中央区）

特徴： 町人たちが出資して設立された学問所です。儒学を基本としながらも、経済学や自然科学など幅広い学問を研究し、実学を重んじました。特に中井竹山・履軒兄弟が有名で、町人層の教育に大きく貢献しました。申義堂と同じく、庶民の教育にも力を入れた点で共通点があります。

咸宜園（かんぎえん）

場所： 豊後国日田（現在の大分県日田市）

特徴：儒学者・広瀬淡窓（ひろせたんそう）が開いた私塾で、身分を問わず、全国から多数の門弟を受け入れました。「三奪（さんだつ）の教え」（入門時に年長を誇らず、過去の学歴を誇らず、身分を誇らない）を掲げ、平等な教育を行ったことで知られます。儒学だけでなく漢詩や医学なども教え、明治維新で活躍する多くの人材を輩出しました。

洗心洞塾（せんしんどうじゅく）

場所：長門国萩（現在の山口県萩市）

特徴：儒学者・吉田松陰が叔父の玉木文之進の松下村塾を引き継ぎ、主宰しました。儒学（特に孟子）を重んじつつも、兵学や西洋の知識も教え、国家への忠誠や武士道精神を強く説きました。高杉晋作、伊藤博文、山県有朋など、明治維新の立役者となった多くの志士を育てました。

泊園書院（はくえんしょいん）

場所：大坂（現在の大阪市北区）

特徴：藤沢東畡・南岳親子が主宰した私塾で、昌平坂学問所と並び称されるほどの規模と質の高さで知られました。儒学の古典研究を深く行い、多くの学者を輩出しました。

これらはごく一部ですが、江戸時代に儒学教育の中心となった代表的な私塾です。これらの学問所は、

単に学問を教えるだけでなく、当時の社会や思想形成に大きな影響を与え、多くの有為な人材を輩出ました。

○ **儒学と朱子学**

儒学(じゅがく)とは広義の儒学:

中国の春秋時代の思想家である**孔子(こうし)**によって始められた思想体系、学問、倫理、さらには広義の宗教的側面を含むものです。

特徴:

○ **人間関係の倫理:** 「仁(じん)」「義(ぎ)」「礼(れい)」などの概念を通じて、個人の修養、家族の秩序、社会の調和、国家の安定を目指します。特に「五倫(父子・君臣・夫婦・長幼・朋友)」といった人間関係における道徳を重視します。

○ **政治思想:** 徳治主義(統治者が徳によって民を治めること)を理想とし、学問を修めた人物が政治を行うべきだと説きます。

○ **経典:** 『論語』『孟子』『大学』『中庸』といった「四書」や、『詩経』『書経』『易経』『礼記』『春秋』といった「五経」を主な経典とします。

○ **歴史:** 紀元前の中国で始まり、漢代には国家の正統な学問として確立され、その後2000年以上にわたって中国や東アジア諸国(朝鮮、日本、ベトナムなど)の社会、文化、政治に絶大な影響を与えました。

朱子学(しゅしがく)とは儒学の一派・発展系

朱子学は、中国の**南宋時代**に朱熹(しゅき、朱子とも呼ばれる)によって大成された、**新しい儒学の学問体系**です。中国では「程朱学(ていしゅがく)」とも呼ばれます。

- **形而上学的要素の導入:** 儒学に、仏教や道教の思想を吸収・批判的に取り入れ、より**体系的で哲学的な側面**を強化しました。宇宙の根本原理を「**理**」と「**気**」という二つの概念で説明する「**理気二元論**」が核となります。
  - **理:** 万物の根源にある普遍的な法則や原理、秩序。人間の本性も「理」であり、それは本来善であるとされます(性即理)。
  - **気:** 理が現実世界で形をとるための物質的な要素。気質の清濁によって個人の能力や道徳性に差が生じると考えます。
- **修養論:** 「理」を理解し、自己の「気」を清らかにするための修養法を重視しました。「**格物致知(かくぶつちち)**」(外界の事物の理を窮めることで、自己の知を極めること)や「**敬(けい)**」(心を集中し、雑念を払って自己を律すること)といった実践が説かれました。
- **大義名分論:** 君臣の秩序や、身分・役割に応じた道徳的規範を重視し、上下関係の厳格さを説きました。これは、封建的な社会秩序を維持する上で都合の良い思想として、特に元・明・清や日本の江戸幕府に重用されました。

朱子学と儒学の関係性

端的に言えば、**儒学** は、孔子を始祖とする広範な思想・学問の**総称**です。**朱子学** は、その儒学が**宋代に大きく発展し、朱熹によって体系化された、特定の学派**(あるいは「新儒学」「宋学」とも呼ばれる)です。

つまり、**朱子学は儒学の中に含まれる、より詳細で体系化された理論**ということになります。 江戸時代に幕府の

「官学」とされたのは、この朱子学でした。これは、朱子学が上下関係や秩序を重んじる思想であるため、幕府の統治体制を支えるのに適していたからです。

儒学・朱子学の設立当時の学者と発展の歴史

まず、「儒学」と「朱子学」は時間軸が異なります。「儒学」は紀元前の中国に始まり、「朱子学」はその儒学が宋代に発展した一派です。

1，　儒学の設立当時の学者と発展の歴史

設立当時の学者（春秋時代・戦国時代）：

- **孔子（こうし、紀元前551年頃 ・ 紀元前479年頃）：** 儒学の始祖。周の時代の徳治主義を理想とし、「仁」を中心とした人間関係の倫理や政治思想を説きました。その言行は『論語』にまとめられています。
- **孟子 （もうし、紀元前372年頃 ・ 紀元前289年頃）：** 孔子の思想を受け継ぎ、「性善説（人間は生まれながらにして善の性質を持つ）」を唱え、王道政治を主張しました。
- **荀子　（じゅんし、紀元前313年頃 ・ 紀元前238年頃）：** 孟子と同じく孔子の思想を継承しましたが、「性悪説（人間は生まれながらにして悪の性質を持つ）」を唱え、礼や法による教育の重要性を強調しました。
- **発展の歴史（儒学の確立と変遷）：**
- **漢代：** 儒学は前漢の**武帝**の時代に**董仲舒（とうちゅうじょ）**の献策により「五経博士」が置かれ、**官学**として確立しました。これにより、儒学は中国の国家体制を支える思想的基盤となります。

○ **魏晋南北朝～唐代**: この時代は、仏教や道教が隆盛し、儒学は一時的に相対的な地位を低下させます。しかし、儒学の経典研究(訓詁学)は続けられ、後の発展の土台となりました。唐代には**韓愈(かんゆ)**らが、仏教・道教への対抗から儒学の復興を唱え、宋代の新しい儒学(宋学)の先駆となりました。

2, 朱子学の設立当時の学者と発展の歴史

設立当時の学者(北宋・南宋):

○ **周敦頤 (しゅうとんい、1017年 - 1073年)**: 宋学(朱子学の源流)の始祖とされる人物で、仏教や道教の宇宙論を取り入れ、「太極図説」を著しました。

○ **程顥 ((ていこう、1032年 - 1085年)**

○ **程頤 ((ていい、1033年 - 1107**: 「二程子(と呼ばれる兄弟の学者で、朱子学の理論的基礎を築きました。「理」と「気」という概念を導入し、宇宙の根本原理を説明しようとしました。彼らの思想は「理気二元論」「性即理」として知られます。

○ **張載(ちょうさい、1020年 - 1077年)**: 「横渠先生」とも呼ばれ、気の概念を発展させ、万物は気によって構成されると考えました。

○ **朱熹(しゅき、1130年 - 1200年)**: 南宋の儒学者で、**朱子学の創始者(大成者)**です。周敦頤や二程子らの思想を受け継ぎ、これに自身の解釈を加えて「理気二元論」「性即理」「格物致知」「敬」といった概念を体系化し、朱子学(中国では「程朱学」と呼ばれる)を確立しました。朱熹の思想は、その後の中国の主要な思想となり、日本や朝鮮にも大きな影響を与えました。

- **発展の歴史（儒学から朱子学へ）：**
  - **宋代：** 唐代末期の混乱を経て、宋代になると、仏教や道教に対抗し、儒学を再構築しようとする動きが活発になります。この中で、宇宙論や存在論といった哲学的な側面が儒学に取り入れられ、新しい儒学「宋学」が形成されました。朱熹は、それまでの宋学の思想を集大成し、宇宙の根源から人間の修養法、政治のあり方までを統一的な理論体系として構築しました。
  - **元・明・清代：** 朱子学は、元代に科挙の教科書に採用され、明代には国家の正統な学問（官学）としての地位を確立します。清代においてもその影響力は大きく、国家の統治思想として盤石なものとなりました。
  - **日本への伝来と発展：** 日本には鎌倉時代に伝えられ、江戸時代には徳川幕府の**官学**として採用され、幕藩体制の精神的な支柱となりました。林羅山や新井白石、室鳩巣などが代表的な朱子学者として知られます。

素読（そどく）について

「素読」は、主に漢文（特に儒学の経典）の学習において用いられた、**伝統的な読書法**です。

意味と方法：

- 書物の内容や意味を深く解釈することよりも、**文字を声に出して繰り返し読む**ことに重点を置く学習方法です。「素読み（すよみ）」とも言われます。
- 特に意味を教え込まなくても、ひたすら音読を繰り返すことで、自然と文章のリズム、文体、語感を身体に染み込ませることを目的とします。

- 江戸時代の寺子屋や藩校では、子どもたちが「論語」や「大学」などの経典を大きな声で素読する光景が一般的でした。
- **目的と効果:**
- **暗記と記憶力の向上:** 繰り返し音読することで、文章を丸ごと暗記しやすくなります。
- **文章感覚の養成:** 意味は後回しでも、ひたすら声に出して読むことで、古文や漢文の独特の言い回しやリズム、構造が自然と身につきます。
- **集中力の養成:** 音読に集中することで、他の雑念を排し、精神を集中させる訓練にもなりました。
- **言葉の響きの体感:** 文字を目で追うだけでなく、耳で聞き、口で発することで、言葉が持つ本来の響きや重みを体感できます。これは、現代の黙読中心の読書では得られにくい効果です。
- **「読書百遍、義おのずから通ず」:** 百回読めば、意味はおのずと理解できる、という考え方で、素読の精神をよく表しています。

素読は、現代の教育現場でもその効果が見直され、国語教育や論語教育などで取り入れられることがあります。意味理解より先に、まず文章そのものを身体に入れるという、日本独自の伝統的な学習法と言えるでしょう。
江戸時代から明治初期にかけて素読で学び、後に有名になった方々についてですね。福沢諭吉や夏目漱石はまさに

その代表格ですが、他にも多くの著名人が素読教育を受けています。
素読は当時の基礎教育として広く行われていたため、様々な分野で活躍した人々がその恩恵を受けています。
どのような分野の著名人が素読で学んだのでしょうか？ 福沢諭吉や夏目漱石以外に、特に素読が学問的背景に影響を与えたと語られる人物はいますか？
以下のクエリで検索を行い、情報収集します。 江戸時代から明治初期にかけて素読で学び、後に著名になった人物は非常に多く、当時の教育の基礎であった素読がいかに重要であったかを物語っています。福沢諭吉や夏目漱石は確かにその代表格ですが、他にも様々な分野で活躍した人物が素読の恩恵を受けています。
以下に、その他の著名人を挙げます。

○ **儒学・漢学の素養が基盤となった著名人**

素読は主に儒学の経典や漢籍を学ぶために行われました。そのため、幕末の志士や明治の啓蒙思想家、政治家、教育者など、漢学の素養が必須とされた分野で活躍した人物に多く見られます。

吉田松陰（よしだ しょういん）

幕末の思想家、教育者。松下村塾を主宰し、高杉晋作や伊藤博文ら多くの明治維新の志士を育てました。彼自身、幼少期から厳格な漢学教育と素読を受けており、その強固な精神形成の基盤となりました。

伊藤博文（いとう ひろぶみ）

○ 明治維新の元勲、初代内閣総理大臣。吉田松陰の松下村塾で学び、幼い頃から素読を通じて儒学の素養を身につけていました。この素養が、後の政治家としての国家観や倫理観に影響を与えたとされます。

大隈重信（おおくま しげのぶ）

○　明治の元勲、早稲田大学の創設者。幼少期に佐賀藩校弘道館で素読を含む漢学を学びました。彼の学問への探求心や政治手腕の根底には、幼少期の素読で培われた集中力や知識欲があったと言われています。

中村正直（なかむら　まさなお）

○　明治初期の啓蒙思想家、教育者。岩倉使節団に随行して欧米を視察し、帰国後は『西国立志編』などを翻訳・紹介し、西洋思想の普及に貢献しました。彼もまた、漢学の素養が深く、素読を通じて培われた読解力や学力が、西洋の知識を吸収し翻訳する上での基盤となりました。

植木枝盛（うえき　えもり）

○　明治期の自由民権運動家、政治家。幼少期から素読による漢学教育を受けました。彼の思想の根底には、儒学的な正義感や民衆への視点があり、素読で培われた素養が影響していると考えられます。

文学・芸術分野の著名人

漢学教育を受けた人々は、その素養を基に、日本の近代文学や芸術の発展にも貢献しました。

森鷗外（もり　おうがい）

○　陸軍軍医、作家、翻訳家。幼少期から非常に優秀で、漢学の素養も深く、素読を徹底的に行っていました。その素養は、彼の作品に見られる格調高い文章や古典的な知識に表れています。

幸田露伴（こうだ　ろはん）

○　明治の文豪。幼少期から漢学に親しみ、素読を通じて膨大な漢籍を読み込んでいました。彼の小説に見られる重厚な文章や、東洋的な思想背景には、素読で培われた素養が色濃く反映されています。

、芥川龍之介は素読時代と違うため近代の日本語を持った文学者と言われています。

○本居宣長と国学の研究

彼らがどのように音に着目し、何を研究したのか、もう少し詳しく見ていきましょう。本居宣長や平田篤胤といった国学者たちが、音から古代の書記や万葉集を研究したというお話はまさにその通りです。彼らの研究は、日本語の古代の姿や精神性を理解する上で非常に重要なものでした。

彼らがどのように音に着目し、何を研究したのか、もう少し詳しく見ていきましょう。

1，賀茂真淵の先駆的な研究

本居宣長の師である賀茂真淵は、既に音に言語の根幹を見出していました。彼は「語を意味を有する各音に分解する」という方法を提唱し、音節や五十音の気づきをもたらしました。これは、後の宣長の研究の重要な土台となります。

2，本居宣長の研究

宣長は、「古事記」や「万葉集」といった上代の古典を研究する中で、古代日本語の音に深く着目しました。

万葉仮名　（（まんようがな）の音韻研究：

（ア）万葉集は、漢字の音や訓を借りて日本語を表す「万葉仮名」で書かれています。この万葉仮名には、現代の仮名遣いでは区別されない音が、複数の漢字で書き分けられている現象（例：「き」の音に「伎」と「吉」のような複数の漢字が使われる）があることに気づきました。これを**「上代特殊仮名遣（じょうだいとくしゅかな

づかい)」**と呼びます。

(イ) 宣長は、この書き分けが、古代日本語には現代日本語よりも多くの音の区別(特に母音の区別)があったことの証拠だと考えました。彼は、膨大な万葉仮名の用字を詳細に分析し、平安時代以降に失われた古代日本語の**「音(おん)」**の姿を解明しようとしました。

(ウ) 彼の研究は、単に文字を追うだけでなく、実際にその**「音」を復元**することで、古代の人々がどのように言葉を発し、感じていたかを理解しようとするものでした。

(エ) **『古事記伝(こじきでん)』における音の重視:**

(オ) 宣長の主著である『古事記伝』は、古事記の言葉一つ一つを詳細に考証したものです。彼は古事記の文章を、当時の読み方ではなく、**万葉仮名から推測される古代の音(発音)に基づいて読み解こう**としました。

(カ) このことは、漢字の意味に囚われず、古代の**「言霊(ことだま)」**、すなわち言葉に宿る魂や霊力を感じ取ることを可能にすると考えました。彼は、古代の日本人が言葉を通じて神々や自然とどのように交流していたかを、音を通じて探ろうとしたのです。

(キ) **「物のあはれ」と音:**

(ク) 宣長は『源氏物語』の研究を通じて「物のあはれを知る」という概念を提唱しましたが、これも単なる情緒だけでなく、**言葉の響きや音韻的な美しさ**が感情に訴えかける力を重視したものです。

3, 平田篤胤の研究

平田篤胤は本居宣長の門人ではありませんが、その学説を深く学び、継承・発展させました。彼もまた、古代の音に強い関心を持っていました。

宣長学の継承と深化:

- え、その音の連なりが神々の発した言葉であると信じました。
- 篤胤篤胤は、宣長の万葉仮名研究や古事記研究の成果を基礎としつつ、さらにそれを推し進めました。
- 彼は特に**神代文字（かみよもじ）**の実在を主張し、日本語には漢字渡来以前から文字があったと考
- の学説では、万葉仮名が神代文字とひらがなをつなぐ役割を担うものとして位置づけられ、音の研究が神道の根源に迫る手段として重視されました。

言霊思想の強化:

- 宣長の言霊思想は、篤胤によってさらに強調され、宗教的・思想的な側面が強まります。古代の言葉や音には神秘的な力が宿るとされ、それを解き明かすことが、日本の本来の姿や神々の意志を理解することにつながると考えられました。

音にこだわる理由

国学者たちが音にこだわったのは、以下のような理由からです。

古代日本語の復元: 漢字に頼らず、純粋な古代日本語の音韻体系を解明することで、言霊が宿るとされた古代の

「真の言葉」を復元しようとした。

古代精神の理解: 音の響きやその持つ力（言霊）を通じて、古代日本人の世界観、感情、そして神々との関係性を理解しようとした。

中国思想からの脱却: 儒教や仏教といった外来思想の影響を受ける以前の、日本固有の思想や文化を明らかにしようとする国学の精神に合致した。

彼らの研究は、現代の日本語学や歴史学においても、上代特殊仮名遣いの解明などに大きく貢献しており、その先見性は高く評価されています。

以上、素読が日本に影響を与え、「藩校」や「寺子屋」が日本独自の文化の揺籃になったことはやぶさかではありません。ちなみに近代になると「言葉」と「音」の身体化がうまく出来なくなりました。その代表的な作家では芥川龍之介などがあげられます。それから現代での「言葉と音」は、メディアにのり増幅されて世界をまわります。それは断続的で、真実ともつかないものがあふれるデジタルの時代が到来しました。詩を愛する人たちがここでお互いに学び、成長することが現代の「寺子屋」になればいいと思います。

終

ー参考文献などー

○「江戸の学びと思想家たち」著者　辻本雅史
　出版社　岩波書店

　上記の書籍から素読と日本文化に与えた影響について多くの発想および示唆を受けています。
また、AIに資料収集と構成のアドバイスをもらいました。

上記のQR コードでメールアドレスをダウンロードして電子版を送れと明記の上通信ください。PDFをお送りします。